

よえもん

論語から学ぼう

(記念館の玄関ホールに掲示しています)



《 第17号 》 (2022年2月発行)

令和3年度展示より
「藤樹書院」

シリーズ
よえもん



「論語」雍也第六之二十

書 淵田瑞穂さん

之を知る者は
之を好む者に如かず
之を好む者は
之を樂しむ者に如かず

藤樹書院は、明治13年(1880)9月26日、小川村の火事の時、焼けてしまいました。村の34軒を焼き尽くす大火事で、正門だけが残りました。さいわい中に保存してあった大切な物は、すべて村人の手によって持ち出されました。それらは現在、近江聖人中江藤樹記念館で保管されています。

現在の書院は、明治15年(1882)に仮に建てられたものです。書院の中には、藤樹先生と家族の神主(位牌)が、儒式にのっとってまつられており、敷地内には、藤樹先生ゆかりの藤の木や、三尺の泉といわれている湧き水が出ています。

藤樹先生を敬う多くの人や、上小川の人々の手で守られてきた藤樹書院は、見学をしたり解説を受けたりすることが出来ます。今日も、全国のあちこちから、中江藤樹先生の徳を慕って多くの人々が訪れています。



国史跡 藤樹書院跡



藤樹書院

「知っているという事は好むという事には及ばない。好むという事は楽しむという事には及ばない。」という意味で、物事には、知る・好む・楽しむの段階があることを表しています。

例えば「カレーの作り方」を知って、興味を持って実際に作り、おいしく食べてもらえたら、ますます作り方を調べたり、工夫したりして、カレー作りを楽しみ、腕前も上達することでしょう。

これは、人と出会い、すすんで理解し、ともに喜びことで成長していく姿にも共通するのはないでしょうか。

* 記念館だより *

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。さて、昨年未からの大雪により市内の辺り一面が雪景色となり、除雪、排雪作業等でご苦労されたことと思います。屋根の庇やカーポート、ビニルハウスなどが傷んだり、広域停電となったりで大きな被害がでています。被害に遭われた皆さまにお見舞い申し上げます。雪害やコロナ禍の拡大で寒く厳しい冬ですが、間もなく春も訪れます。今後も皆様に満足いただけるような館の運営に努力いたします。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330